

Show me your calligraphy!

残燈



樽前韻
友



梅堂主人

古
客之稱其系非
者故有宜詩而
有其國画未
邦幸以先哲
牛從東拾馬
之平生不熟
十四友之選
亮以道無云
壬子晚秋

吟友



粧閣
艶友

字は人柄を表わす……？



三土梅堂が賛を書いている「二十四友」の扇面画を貼り混ぜ屏風に仕立てたものです。



表紙画像：上から三土梅堂筆「樽前韻」「残燈吟友」「粧閣艶友」
編集：杉山有美(高松市香南歴史民俗郷土館)
平野文香(高松市歴史資料館)
池見治代(高松市石の民俗資料館)
仁木智恵(高松市讃岐国分寺跡資料館)
綾野七恵(菊池寛記念館)
織田比呂子(高松市埋蔵文化財センター)
発行：高松市歴史資料館 令和6年(2024)3月



香南歴史民俗郷土館

扇は末広がり縁起がよいのです。



長尾雨山の書

三土梅堂の書(表紙)と長尾雨山の書を紹介します。扇面に書かれたこれらの書は、煌びやかな屏風や軸装に仕立てることで、空間を華やかに演出しています。「二十四友」とは、古来「名花十友」「十二客」などとして選び出した草花を友になぞらえたもので、好んで詩画の題目に採られました。扇は、平安期の初期に日本で発祥した装身具で、檜扇と紙貼り扇が考案されたといわれています。扇は普及とともに、江戸時代中期ごろには、著名な文人や絵師などによる絵画会において席画の料紙として好まれ、芸術表現のためには欠かせないものとなっています。

三土梅堂(1844~1918) 綾歌郡西庄村(現在の坂出市西庄)出身の漢学者・教育者。通称は幸太郎。号は梅堂。坂出公学校長。飯山中学校長。丸亀中学校教諭を歴任し、各方面より教育功労者として表彰を受ける。養子の三土忠造も教育者・政治家として活躍。香川県初の大臣として文部、逓信、鉄道、農商務、大蔵の各大臣を歴任。

長尾雨山(1864~1942) 高松藩士の家に生まれる。明治期の日本の漢学者・書家・画家・篆刻家。名は甲、字を子生、号は雨山。通称は慎太郎。狩野画派・内藤湖舟とともに中国字を開花・発展させたひとりに挙げられる。

讃岐国分寺跡資料館

文字が書き記された瓦



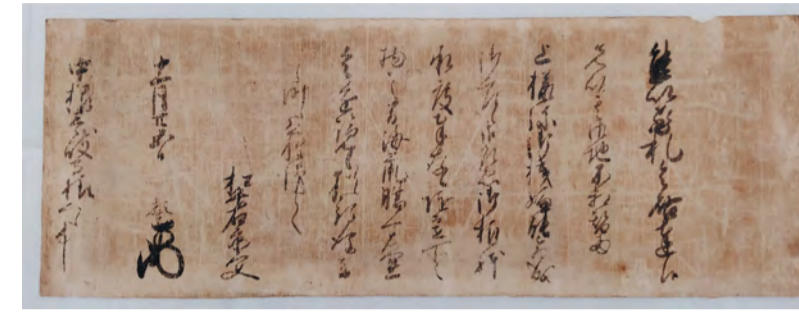
讃岐国分寺跡の東面築地跡からは、国分僧寺の正式名称である「金光明四天王護国(の)寺」の一部をへら書した丸瓦が1点出土しています。文字は、瓦の片側に寄り、端が切り取られていますが、「国分金光明」と読むことができます。

文字の端が切り取られているのは、瓦の作り方が、桶巻きと呼ばれる方法であったためで、筒状のものを半分にする時に文字の部分を確認せずに切ってしまったことを物語っています。

この瓦のほかに、文字が刻まれた瓦も出土していますが、切り取られた文字と合致する瓦は見つかっておらず、まだ国分寺跡のどこかに残り半分が眠っているのかもれません。

高松市歴史資料館

「松平頼重書状」を書いたのはだれ？



松平頼重書状

この書状は、初代高松藩主の松平頼重が海鼠を將軍へ献上する際、幕臣に宛てて出したものです。しかし、実際に本文を書いたのは、実は頼重自身ではありません。

というのも、江戸時代、幕府や各藩には「右筆」という役職が置かれており、文書の作成はこの人たちが担当していたのです。差出人が將軍や大名となっているものでも、本文を作成するのは右筆。御家流の書体で、誤りなく明瞭に書き記してくれています。

ただし、花押部分(書状の左下にあるマーク)に関しては、差出人本人が自筆しています。花押の最後の一画だけ筆を加えるという人も多かったようですが……。

もちろん、將軍や大名が全く筆をとらなかったわけではありません。流麗に表わされた書や私的な手紙から、その筆跡を知ることができ

高松市埋蔵文化財センター

屋島 指定への道のりと残された公文書

屋島は国の史跡天然記念物に指定されています。当初は名勝としての指定を検討されていた屋島・小豆島の眺望ですが、現地調査を重ね、備讃瀬戸一帯まで指定範囲を広げることで、昭和9(1934)年3月16日に日本初の国立公園3園の1つとして瀬戸内海国立公園の指定を受けました。

残された公文書から、実は屋島は昭和6(1931)年に史跡名勝の仮指定を受けていたことがわかります。しかし国立公園の指定後、昭和9年11月10日に史跡及び天然記念物に指定されています。これは、当初の屋島の名勝的価値が天然記念物の価値として置き換えられたと考えられています。

令和6(2024)年、屋島は指定90周年を迎えます。



右：昭和6年 史跡名勝仮指定通知書
左：昭和9年 史跡天然記念物屋島指定管理者通知書 (高松市歴史資料館所蔵)



屋島全景

石の民俗資料館

石に刻まれた安部杏邨氏の書



洲崎寺 寺号標(牟礼町牟礼)



平野市太郎顕彰碑 副碑(写真左)(上之町)

丁場から切りだされた石材は、加工業者のもので仕上がり寸法に加工されたのち、各種の細工が施されます。こうした工程のなかで、石材に文字を彫る作業は、「字彫り」とよばれます。現在は、碑文を印刷したカッティングシートを石に貼りつけて文字を切り抜き、それをもとにサンドブラスト機で文字彫りするのが一般的ですが、かつては、書家の先生にお願いして直接石材に手書きするか、墨書した紙の下にカーボン紙を敷いて石に貼りつけて文字の輪郭を写し取り、ジホリノミとよばれる道具で文字を彫っていました。

庵治石などの墓石や石碑の碑文を書いた書家として著名なのが、牟礼町出身の安部杏邨(1926-2008)氏です。安部氏は、香川県美術展覧会(県展)で入賞を重ね、県展の審査委員・実行委員や、読売書法会理事などを歴任されたほか、平成13(2001)年には、憲法記念日知事表彰(教育文化功労)を受賞されました。安部氏の筆による碑としては、洲崎寺の寺号標や、平野市太郎顕彰碑の副碑などがあります。近くを訪れた際には、ぜひ、その書にも注目してみてくださいね。

菊池寛記念館

菊池寛の座右の銘

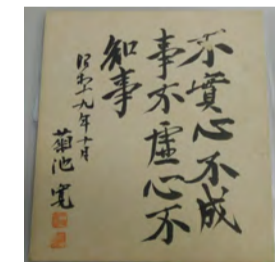
高松市中央公園内南西、菊池寛生家跡のほど近くに建つ菊池寛顕彰碑には、菊池寛の自筆で座右の銘「不實心不成事不虚心不知事(実心ならずんば事成さず虚心ならずんば事知らず)」が刻まれています。「誠実な心でないとい事は成らず、わだかまりのない心でないとい物事は分らない」という意味で、菊池寛はこの漢文を好み、色紙などによく揮毫しました。書の勢いからも、往年の菊池寛の迷いのない心を知ることができます。

「菊池寛生家の跡」の書は友人で作家の小島政二郎によるもので、二人の交流が偲べれます。

この碑は昭和28(1953)年、菊池寛の生前を偲びたいという要望により、生家跡に建立されましたが、現在は高松市中央公園内に移設されています。



菊池寛



菊池寛色紙



菊池寛顕彰碑

※全ての予定は諸事情により大幅に変更される場合があります。

2024年度スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
高松市歴史資料館 高松市昭和町 1-2-20 サクリスタ高松4F 087-861-4520 9:00~17:00	4/27~6/30 収蔵品展 「おでかけ展 一野に出る 四季を楽しむー」	7/20~8/25 収蔵品展 「娯楽の殿堂 一芝居から映画までー(仮)」	10/26~12/22 企画展「遊覧案内図にみる近現代高松の風景(仮)」	1/25~3/16 収蔵品展「幕末の高松(仮)」	■夏休み こども歴史講座 ■くずし字解説講座スタート!(8月~)	■友の会「讃岐村塾」では10回歴史講座を実施しています。ぜひ御入会ください!	■コピー展等 年間通して開催!					
菊池寛記念館 高松市昭和町 1-2-20 サクリスタ高松3F 087-861-4502 9:00~17:00	4/9~6/16 コレクション展 「第四次新思潮の青春」	■「文藝もず」 第25号発売(6月下旬予定)	9/7~10/14 菊池寛記念館第33回文学展 「サザエさんと菊池寛のうちあけ話」	9/14 菊池寛記念館 特別講演会 (春風亭小朝)	12/21~28 菊池寛バースデー (12/26は菊池寛のお誕生日!)	■「文芸講座」開講予定 (毎月1回/6月~令和7年3月)	■コレクション展 随時開催!	■香川菊池寛賞贈呈式(2月) 菊池寛アニバーサリー(3/6は菊池寛忌)				
石の民俗資料館 高松市牟礼町 牟礼 1810 087-845-8484 9:00~17:00	■共催展 「朝展」(4/5~14)	■共催展 「皇月展 前期」(5/11~19)	7/20~8/25 企画展「第38回 思可牟展」	■共催展 「卯月展」(4/19~28)	■共催展 「皇月展 後期」(5/24~6/2)	■共催展 「水無月展」(6/14~23)	■共催展 「長月展」(9/13~22)	※10月中旬~令和7年3月31日 臨時休館予定				
香南歴史民俗郷土館 高松市香南町 由佐 253-1 087-879-0717 9:00~17:00	6/1~7/28 巡回展 「埋蔵文化財展 R4 報告展」	■共催展 「第19回城山まつり」(4/13~5/19)	8/3~9/23 企画展「大馬護・西嶋八 兵衛をたどる(仮)」	■共催展 「香南さつき展」(5/24~26)	8/30~9/8 本のリサイクルイベント「由佐城 古本まつり」	■共催展 「土遊会陶芸展」(10/12-13)	10/27~12/22 特別企画展「日本刀展(仮)」 企画展「第24回 篆刻展」	1/17~2/19 企画展「第24回 郷土の文化 拓本展」				
讃岐国分寺跡資料館 高松市国分寺町 国分 2177-1 087-874-8840 9:00~16:30	4/27~7/7 埋蔵文化財展 「讃岐の古瓦ー東讃編」	■高校生講座(5~7月予定)	【前期】7/17~9/16 【後期】9/18~12/15 企画展「国分寺町の文化財ー石にまつわる文化財篇ー」	■夏休み 古代文化体験講座(7月末~8月初旬)	■讃岐国分寺史跡まつり(11/3)	■歴史講座(全5回)(12初旬~3月中旬予定)	1/21~3/23 企画展「国分寺跡と松(仮)」					
高松市埋蔵文化財センター 高松市番町 1-5-1 087-823-2714 9:00~17:00	4/17~9/27【前期展】 勝賀城跡国史跡指定記念展「お城 de 迷路ー高松の3城ー」 時代順に展示室を進むと現代にゴールする簡単迷路で、高松市の古代・中世・近世の国指定史跡3城の歴史を楽しく学ぼう。	■夏休み体験講座(7~8月)	10/15~4/4【後期展】 瀬戸・高松広域連携中核都市圏⑤綾川町×高松市 「十瓶山界隈の窯跡ーすべと窯跡を中心にー(仮)」 「令和5年度高松市遺跡発掘調査報告展」	■考古学の連載講座「探求!たかまつ遺産」(11月~)	■新春こどもフェスティバル(2月)							

高松市歴史資料館・菊池寛記念館・石の民俗資料館・香南歴史民俗郷土館・讃岐国分寺跡資料館は月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)・年末年始(12/29~1/3)、高松市埋蔵文化財センターは土曜・日曜・祝日・年末年始(12/29~1/3)が休館日です。